

派遣先所属 宮城県気仙沼地方振興事務所 農業農村整備部
氏 名 高橋 吉浩 (たかはし よしひろ)
派遣期間 平成 29 年 4 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の気仙沼地方振興事務所農業農村整備部では、主に気仙沼市・南三陸町の農地・農業用施設・農地海岸に係る東日本大震災からの復旧復興事業に従事し、工事施工管理・計画変更及び事業推進に係る関係機関や地元との調整の業務を行っています。

東日本大震災は、津波による「原形の消失」というかつてない災害であり、農地などについては、原形復旧を基本とする「暫定法」の限界を痛感しました。H16 年の新潟県中越地震において採用された「モデル地区による実地査定を標準にしたモデル方式」の災害査定が適用されたことにより復旧への事業スタートは出来ましたが、「すべてが失われ、復旧を越えた復興」が必要な現状に制度の限界が付きまとい手探りの事業推進に加え、河川・道路等の周辺関連事業との多様な調整事項に時間を取られてきました。

震災から 6 年以上経過し、復興長期化の要因を振り返ると、発災当初の混乱により資材と建設業者の不足による遅れがあったことも事実ではありますが、「モデル方式」の査定結果にそれぞれの現場が有する固有の条件を対応させるための計画変更に時間を有したこと、総合的な調整の結果、廃工となる地区の調整に多大な労力が必要となったことなど、消失した現地の把握と制度の限界等による調整業務の高度化が大きな障害となり、事業進捗の足かせとなったと感じています。

海岸堤防復旧「L1 堤防」：清水（1）地区（南三陸町）



2 被災地の復旧・復興の状況

農地の災害復旧状況は、管内被災面積 1,135ha に対して着手面積が 1,122ha、着手率が 99%、そのうち完成面積は 1,101ha、完成率は 97%です。(平成 29 年 10 月 11 日公表(平成 29 年 9 月末時点))なお、農業農村整備部における農地復旧の完了見込みは、気仙沼市が平成 30 年度、南三陸町が平成 29 年度となっています。

農業用施設の災害復旧状況は、復旧見込 14 地区のうち気仙沼市は 11 地区が完成、南三陸町は 2 地区が完了、1 地区が工事施工中です。

農地海岸の災害復旧状況は、復旧見込 19 か所のうち気仙沼市は 5 か所が完成、南三陸町は 10 か所が完成、残り 4 か所が工事施工中です。



廻館工区 水稻作状況

3 被災地へ派遣となって感じたこと

宮城県へは全国から復興支援のための職員派遣があり、多くの農業土木技術職員と共に仕事をさせていただきました。このことにより様々な考え方に触れ、いろいろな地域の農業事情を知ることができ、貴重な体験を得ることもできました。さらに、人脈が大きく広がったことにより問題解決の手掛かりとなる情報・考え方を収集できる可能性も大きく広げることができました。今までの経験を生かし、被災農地の復旧と地域農業の復興へ向けて微力ではありますが、引き続き業務に邁進したいと思います。